

<課題>

学校段階が進むにつれて、子どもの読書離れが進んでいる現状がある。また、乳幼児期から高校期にわたるそれぞれの発達段階に応じて、体験的に読書に親しむような機会が少ない。

<事業のねらい>

発達段階に応じた研修の充実を図り、家庭・学校・地域が連携して乳幼児期から高校期に至る切れ目のない読書活動を推進し、子どもが主体的に読書活動に取り組み、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指す。

読みたい 知りたい 薦めたい  
～新しい生活様式と読書～

日 時：令和2年8月6日（木）  
10：30～15：40  
場 所：白河文化交流館コミネス

企画運営委員会（第1回7/17・第2回1/27）

- ・事業の在り方や効果的な実施・評価方法等の検討
- ・令和2年度事業計画の内容検討及び助言
- ・事業の成果についての点検・評価
- ・次年度事業への助言

乳幼児期における読書



講義・実演「乳幼児と楽しむ絵本」  
講師 浦安市教育委員会子ども図書館準備室長 島本まり子 氏  
参加者：70名  
絵本の種類とその特徴、さらに、身体の発達と心と言葉の発達の面から絵本の選び方について、実際に絵本を通して理解を深めることができた。また、読み聞かせの大切さについて学ぶことができた。



中高校期における読書

講義・実演「読む楽しみ 話す喜び」  
講師 活字文化推進会議事務局 和田 浩二 氏  
早稲田大学大学院 中村 朱里 氏  
（第1回全国高等学校ビブリオバトル大会優勝）  
参加者：90名

ビブリオバトルの効果や普及活動、全国大会を開催するまでの経緯や運営について、主催者と参加者の両者から理解を深めることができた。日本一の実演や体験談は、感動的であった。

小学校期における読書



講義・実演「本との出会いを楽しもう～ブックトークで～」  
講師 埼玉県三芳町立中央図書館長 代田 知子 氏  
参加者：93名  
ブックトークの基本、進め方、事前の準備、本番での基本など実演を通して理解を深めることができた。また、多くの実演から、ブックトークの楽しさ・面白さ・感動を味わうことができた。



図書館紹介

令和2年度子供の読書活動優秀実践図書館「泉崎図書館」司書より、様々な取組事例、利用の仕方やサービスについて説明があり、利用の促進を図った。

- 沢山の絵本を具体的に紹介していただき、子どもたちにとってどのような絵本が良いのかわかりやすかった。（幼稚園教諭）
- どれも読んでみたいと思うブックトークでした。実演が多く、とても参考になりました。（学校関係者）
- 今後、ビブリオバトルに参加するので、今日学んだことを活かしていきたい。すごく楽しかったです。（高校生）
- 中村さんの実演を聞いて、改めてビブリオバトルの楽しさを子どもたちに伝えたいと思いました。（図書館関係者）

※ 参加者の声

<成果>

- ・子どもの発達段階に応じて、乳幼児期、小学校期、中・高校期に応じた講義・実演、さらに図書館紹介を設定することにより、子どもの読書活動の推進に向けて多面的・多角的に捉えることができ、参加者の読書意欲や読書推進の意欲の向上につなげることができた。
- ・学校や幼稚園、図書館司書やボランティア関係者及び保護者の参加もあり、講義・実演を受けることによる資質の向上だけでなく、「第四次福島県子ども読書活動推進計画」についても共有することができ、子どもの読書活動推進に向けた意欲の向上を図ることができた。

## 令和2年度ひょうご子どもの読書活動アクションプラン事業

### 課題

「子どもが本に出会い、触れる機会の充実」・「子どもの読書活動を支える人材育成」・「新しい時代への対応」

### ねらい

高校生の不読率の改善に焦点を当てた取組を基軸に、発達段階に応じた効果的な読書活動を推進

#### 主な内容1

本に出会い・触れる機会の充実

### 兵庫県ビブリオバトル高校生大会

高校生が本と接する機会を創出しています。  
また、「主体的・対話的で深い学び」の実現と、  
プレゼンテーション能力の向上にも寄与しています。

○令和2年12月26日(日)

○兵庫県立図書館

\*大会の様子 <https://www.youtube.com/channel/UCw3CrSnTo435y0cBDvOBrrnQ/playlists>



### 高校生の読書活動推進に係る研究事業

- 研究協力校における読書活動推進のための取組
  - ・ ゆかりの著名人による講演等
  - ・ 校内推薦図書を選定
  - ・ 校内ビブリオバトル
  - ・ 幼稚園への読み聞かせ活動
  - ・ 地元企業との連携 等
- リーディングスキルテストの実施



#### 主な内容2

情報発信・人材育成

### 全県フォーラム(動画配信)と、リーフレットの作成

読書活動を推進する関係者等が、研修で活用できる資料(リーフレット・動画)を作成し、「ひょうご子どもの読書活動推進計画(第4次)」の周知し、子どもの読書活動推進に関する現状と課題について、学校種や学校・家庭・地域が連携することについて重点を置き、事例提供を行っています。

動画を用いた全県フォーラムでは、多様化する出版形態等、新しい時代への変化を踏まえた、「これからの子どもの読書活動」について考える機会としています。

#### 子どもの読書活動推進全県フォーラム

- 令和3年2月17日～26日(動画配信)
- 実践発表・パネルディスカッション

テーマ:新しい生活様式 これからの子どもの読書活動への期待

#### ひょうご子どもの読書活動アクションプランリーフレット

- ひょうご子どもの読書活動推進計画(第4次)
- 発達段階に応じた本に触れる機会の創出
- 県内の好事例の掲載



### 成果

○ コロナ禍においても、資料やオンラインを活用することで、県内の子どもの読書活動に関する現状と課題について、関係者の共通認識を図り、公立図書館や学校等の各主体において、課題への方策を具体的に考える機会を創出することができた。

○ 読書活動と基礎的読解力の向を検証するにあたり、基礎となる資料を収集することができ、高校生の読書への関心を高めるための今後の方策検討につなぐことができた。

### 課題

○小学校から中学校に進むに従い、読書離れが顕著になっており、小学生期の読書習慣の定着が課題

○本県は図書館設置率が全国平均より低く、読書環境の面において子供が読書活動を行う上での課題



### 事業のねらい

(1) 学童保育所や困難を抱える子供・家庭への訪問、コミュニケーションを通じて小学校低学年及び中学年における読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。

(2) (1)の取組に対し県立図書館が資料の選定及び貸出の支援・連携を行うことで、人材や、蔵書量に課題を抱える自治体でも(1)のような取組が導入可能か検証

### 実施内容

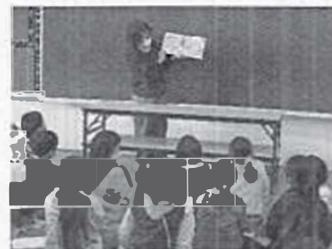
- ・学童保育所や困難を抱える子供の家庭へ定期的に訪問を行い、読み聞かせや子供とのコミュニケーションを通じて読書へ誘う。次回訪問まで本を設置しておくことで、身近に本がある環境を提供する。
- ・県立図書館から図書を選定や貸出の支援を行う。
- ・取組の効果や課題を他の地域における実践の参考となるよう検証を行う。

#### ①学童保育所や困難を抱える子供の家庭への訪問 (那智勝浦町へ再委託)



対象：  
那智勝浦町内の学童保育所3か所  
(小学校1～4年生約70名)  
困難を抱える子供(不登校)の家庭のうち訪問可能であった2家庭

学童保育所(訪問時間40分～1時間)  
読み聞かせの後、読書の時間を設け、本を手にとらない子供に声をかけ、本を紹介。本に興味を示さない子供には電子書籍を紹介



困難を抱える子供の家庭への訪問  
対話の中で興味を持ちそうな本を紹介

#### ②県立図書館から資料の選定及び貸出の支援 第1回目の訪問終了後、那智勝浦町に聞き取りを行い、子供たちの学年や手に取る本の傾向に合わせた図書を選定・貸出を行った。(60冊) → 学童保育所への配本に利用

#### ③取組の効果や課題の検証 企画運営委員会を設置し、取組の効果や課題の検証を行った

### 成果・課題

学童保育所での取組については、アンケートの結果からも、読書習慣の形成に関して一定の効果が見られた。

#### 【アンケートの結果】

1日の読書時間	実施前	実施後
ほとんどよまない	29.1%	25.0%
10分くらい	27.3%	16.7%
20分くらい	10.9%	13.9%
30分くらい	29.1%	19.4%
1時間以上	3.6%	22.2%

困難を抱える子供の家庭への訪問では、本人より書籍の希望が出るなど読書の導入に繋ぐことができた。課題としては、コミュニケーションを取ることが困難で書籍を手渡すことができない子供もいた。

#### 取組や課題の検証

【課題】読み聞かせの本の選定では、町立図書館の支援を受けられた一方で、配本を選択する際、不安を感じた。

【企画運営からの評価及び提案】  
・読み聞かせの後の子供と一緒に本に触れる時間が長かった。大人が本を紹介するだけではなく、逆に子供から本を紹介してもらおうというのも効果があるのでは。  
・限られた時間内での読書活動において絵本はとても有効である。配本にもっと絵本を取り入れてみてはどうか。  
・学校の先生との連携が課題解決の一助となるのでは。

・本の選択については、図書館のブックリスト、セット貸出の活用。また教科書で紹介されている本も大変参考になる。

# 令和2年度子供の読書活動の推進 発達段階に応じた読書活動の推進委託事業 (滝川市教育委員会)

## 「笑顔がひろがる『たきかわっ子』読書推進プロジェクト」実施報告

### 【課題】

様々な困難を抱える子供達への読書支援については発達途上の分野であり、特に不登校の子供達に対する取組は行われていないため、関係機関と連携し継続した読書推進が課題です。

### 【事業のねらい】

障がいや貧困、不登校などの困難を抱える子供達へ本を通して友人や周りの大人とコミュニケーションを深める機会を提供することで、一人でも多くの子供たちに笑顔が生まれ、生きる力が育まれるよう、各機関と連携した読書活動を推進します。

### 【周知】

HPやFacebook  
でも事業PR!!

通園事業所の  
作品・活動展示

館内展示で市民周知

作成したチラシの披露と  
掲載図書の展示

実施報告チラシの配布

### 実施前・実施後の比較表

	2018年度	2020年度
団体件数	14団体	16団体
貸出件数	71件	87件
貸出冊数	1,687冊	2,598冊
事業実施回数	2回	18回
事業参加者数	33人	596人

1.5倍

18倍

### 【実施内容】

#### 1. 障がい等の困難を持つ子供達への読書支援

- ①団体貸出により身近に過ごす場所での読書環境を整備しました。
- ②出張おはなし会及びクリスマス施設訪問を実施しました。
- ③図書館訪問を受け入れました。(特別支援学級児童を含む訪問)
- ④点字本や大活字本、触感を楽しむ絵本等を充実させました。
- ⑤チラシを作成しました。
  - 「図書館の仕事や利用についての説明用チラシ」(2種)
  - 「障がいを知り、共に生きる」
- ⑥図書館で通園事業所の通所児の作品や施設訪問の様子を展示しました。



出張おはなし会



クリスマス施設訪問



おすすめ本チラシ

#### 2. 貧困等の困難を抱えるお子さんへの読書支援

- ①チラシを作成しました。
  - 「滝川市立図書館イチオシBOOK!!」小学校1・2・3年生版
  - 「滝川市立図書館イチオシBOOK!!」小学校4・5・6年生版

#### 3. 不登校等の困難を持つお子さんへの読書支援

- ①団体貸出により身近に過ごす場所での読書環境を整備しました。
- ②滝川市適応指導教室ふれあいルームでPOP作成講習会を実施しました。
- ③「ふれあい通信」を発行しました。
- ④クリスマス施設訪問を実施しました。
- ⑤滝川市適応指導教室ふれあいルームでアニメーションと牛乳パックを使ったブックスタンドづくり講習会を実施しました。
- ⑥チラシを作成しました。
  - 「生きづらさを抱えるあなたへ」



団体貸出



POP作成



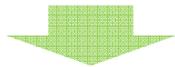
ブックスタンドづくり

### 【成果】

- 日常的に本を手にとれる環境にない子供達が本に触れる機会が増え読書の習慣化が図られました。
- 子供同士、また周りの大人と本を通じたコミュニケーションが図られ、社会とのつながりや支えられていることに気づき、「自分は一人ではない」という安心感や自己肯定感が高まり、子供達の心の安定につながり、事業開催にもたくさんの笑顔が生まれました。
- おすすめの本の紹介で、「もっと読みたい」という読書意欲の喚起につなげることができました。
- 様々な立場の大人たちが手を取り合うことで地域力が高まり、子供達のための新しい取組に発展しました。特に適応指導教室については、回を追うごとに参加が増え、子供達が楽しみにしてくれているのが伝わりました。
- この取り組みは一過性のものではなく継続して行い、図書館と各連携先だけではなく、図書館を軸として相互につながりが広がることを期待できます。

## 課題

平成29年のアンフォーレのオープンを機に大きく前進した学校図書館と公共図書館の連携強化により、市内の児童生徒の読書環境、学習環境は大きく改善された。ほとんどの児童生徒はその恩恵を受けることができたが、不登校の児童生徒は受けられていない。



## 事業のねらい

教適応指導教室「不登校児童生徒のためのふれあい学級」の児童・生徒を対象に、読み聞かせ、ブックトーク等を実施し、すべての子供が本に親しめる環境づくりを推進する。



## 実施内容

- ① 「アンフォーレがやってくる」ふれあい学級への定期的出前おはなし会
- ② 「アンフォーレにいくつくる」不登校児童生徒のための居場所づくり

### ① アンフォーレがやってくる



- ・ふれあい学級へ図書(1か月間)の貸出
- ・子どもたちの状況に応じた読み聞かせ、本紹介

### ② アンフォーレにいくつくる



- ・居場所としてのグループ学習室の開放
- ・子どもたちの状況に応じた読み聞かせ、本紹介
- ・開架での自由な閲覧
- ・館内ツアー、本探しゲーム等のイベントの開催

## 成果

### ○アンフォーレがやってくる

・本の紹介や読み聞かせを通して、子供たちの読書体験の拡大につながった。

・子供たちが本を手にする様子や実際に子供たちと会話をする中で、どんな本に興味があるのか知ることができた。

### ○アンフォーレにいくつくる

・実際に図書館を利用することや館内ツアー/本探しゲーム等のイベントを通して、子供たちが読書に親しむきっかけとなった。

・全回通して本の貸出があり、参加者の読書への興味が窺えた。

区分	1回	2回	3回	4回
参加者	6人	3人	9人	3人
貸出冊数	4冊	3冊	8冊	3冊

※参加者はふれあい学級通室の希望者のみ。(当日の通室者は10名程度。)